

つだ恵子の 「未来の子どもたちのための政策」

島田に感謝を込めて

いま、やっておきたいこと～

クリーン ・ グリーン ・ ヘルシー



【発行】

島田を変えよう・みどりの風

もう、多くの市民が気づいています…

なんだかヘンだよ。ちょっとおかしいぞ。やっぱり不安よね。
私たちの日常の会話の中でも、そんな声が増えてきています。

島田の市民にとっていちばん身近な政治は、島田市のあり方。
景気が悪化して家計が苦しくなっているのは、私たちの暮らし
も市の財政も同じはずなのに、誰も見えないところで、知らない間
に、無駄とわかる新しい施設が計画されていたり、その反対に、本
当に切実な要望が、「市にお金がないから！」のたったひとりで、い
とも簡単につっぱねられてしまったり…。
そんな不満はありませんか。どこかが違っていると思いませんか。

これからの見通しが、たとえバラ色の明るいものでなくても、オー
プンな説明で納得のいくものでさえあれば、市民だって我慢すべき
は我慢もするし、余分な箱モノはいらないと言うし、要性の優先順位
に納得しながら、市の財政を考えますよね。
もう耳ざわりのよい「大風呂敷をひろげる」時代ではありません。

「島田市が直面している、現在の課題」

1. 行政の透明性が非常に低く、財政見直しなどの市民に必要な情報が公開されていない。

施策の決定過程が不透明！

全体事業費が公開されない！

将来コストの計算がない！

スポーツセンター建設の例

建設費 最初の計画 25 億 3,000 万円 36 億 2,000 万円の膨張

ランニングコストについて

平成 20 年 9 月 10 日議会

A 議員の発言……いわゆるランニングコストですね。

そういった公開を私はすべきだと思う。

B 部長……… なかなか簡単には出せませんし、数字がやはり一人
歩きしてしまうというようなおそれがありまして、行政としましては、そう
したところを一番危険視いたしますので、慎重にしていきたいというふうに
思っております。

2. 箱モノ行政のツケと経済情勢の悪化が重なり、市民の負担が増大してくる。

市民の貯金である基金が減ってきました。この8年間で市民一人あたり12
万円が平成 21 年度末には 2 万円に減ってしまいます。総合計画の財政見
直しによると、借金返済額の変動は小さいが歳出全体に占める割合は、
平成 21 年度 12.5%から平成 25 年度 14%に膨らんでいきます。

3. 少子高齢化と低成長経済という全国的傾向の中で、島田市の地域経済も衰退する。

本年策定された総合計画の財政の見通しを見ると税収入は少子高齢化と人口の減少と経済衰退で平成 21 年度 141 億円から平成 25 年度 137 億円と約 4 億円減る。地方交付税という国からの支援も 45 億円から 44 億円と 1 億円の減と見積もっている。ただし、国の財政を見てもっと多くの減になると思われる。島田市の人口推計は平成 25 年には 98,442 人に減少すると予測している。

つだ恵子がめざす、これからの島田市。

「クリーン」「グリーン」「ヘルシー」...これが、つだ恵子が掲げる主要なテーマです。カタカナ言葉なので、ちょっとおしゃれなイメージですが、中身はとても重大です。切実です。緊急です。そして 3 つともが、現在の島田市政に「欠落しているもの」です。

皆さんのところへは、いま、必要な情報が提供されていますか。なぜ？ どうして？ そんな歯痒い疑問や苛立ちを感じませんか。市と市民との間に厚いベールや濃い霧がかかってはいませんか。

石油の高騰や有害食料が暮らしを直撃したのは、つい最近です。地球温暖化による環境の変化、化学物質による健康への影響...それをセーブして、低炭素社会という新しい理念のもとに産業を生み出す政治の流れが、諸外国で始まっています。米大統領の「チェンジ」もその一例。未来へ向けて地方政治もまた決してそれと無縁ではいけません。本当の豊かさや幸福とは何かが問われているのだと思います。

このまま手放しで将来は大丈夫かなと考えることはありませんか？
このままの状態では子供や孫の世代に現在のツケを回しそうな不安を感じませんか？
このままでは、市民の負担が増えそうな危機感を覚えませんか？

だったら、つだ恵子とともに島田市を変えませんか。

本気で未来を語れる「まち」にしたい！

- 1 . **クリーン** = **透明性が高い**
必要な情報を明らかにして。
市民と一緒に考える、
クリーンなまちにしたい！
- 2 . **グリーン** = **環境と経済が豊か**
環境やエネルギーなど
未来のために税金を使って、
新しい雇用を生み出す、
グリーンなまちにしたい！
- 3 . **ヘルシー** = **ムダがなく健康**
無駄なハコモノを作らないで、
教育・医療・福祉サービスを充実させ、
若い人の雇用を増やす。
ヘルシーなまちにしたい！

市民と共に考える市長でありたい...

つだ恵子の実践と実績とその資質

クリーンなまちづくりができるのは
18年(5期)の市議会議員活動の中で、行政の透明性を確保するための情報公開条例、議員の役割を明確にする議会基本条例の制定に取り組んできたから。

グリーンなまちづくりができるのは
福祉・環境などの諸分野で、未来志向のさまざまな市民活動に30年以上取り組んできたから。

ヘルシーなまちづくりができるのは
財政と政策評価の知識を、議員を続けながら静岡大学と大学院(静大の修士課程)で8年間真剣に学んできたから。

もっと住み良い島田へ

つだ恵子マニフェスト第2版

これまでの島田市政は、子育て支援でかなり充実した施策を行ってきています。私も議員活動の中で、女性の視点を生かした政策提案を行ってきました。

一方で、多くの施設を整備してきた結果、ここ8年で島田市の貯金は大きく減って（市民一人当たり12万円から2万円へ）、借金が増えています（市民一人当たり23万円から50万円へ）。家計をやりくりする女性の感覚で言うと、これからは未来に備えて借金を減らし、貯金を増やしていかなければいけません。

そして、島田市の財政は、

県内16位（実質公債費比率・19年単年度）

行政サービスでは子育て支援2位。

高齢者福祉最下位。

教育16位

情報公開度については18位です。

この位置に満足しているのではなく、それぞれの分野で県内一を目指して、

もっと順位を上げていくべきだと思います。

現在に満足しているのではなく、市長を先頭にして職員と市民のみなさんの知恵と力を集めていけば、もっと住みやすい島田市をつくっていけるのです。そのためには、トップを変えなければなりません。

男女共同参画社会条例を制定している島田市であるからこそ、県内初の女性市長として、女性の視点からのまちづくりを実現していきます。

市長報酬を年棒化し、市長が先頭に立って財政の健全化に取り組みます。

給与とボーナス5700万円プラス退職金1800万円で7500万円の市長報酬を、4年間で約5500万円（年間約1380万円）減額し、子育て支援や元気なまちづくりの予算にまわします。

市民の知恵を集めて予算編成を行います。

予算編成プロセスを、インターネットホームページ・町内会等の座談会・パブリックコメントで全面公開します。職員と市民の知恵を集めてコストの徹底的な削減を行います。

大型事業は、市民参加で「必要」か「不要」か、検証します。

建設予定のハコモノ（1億円以上）については、市民で議論する「市民フォーラム」を開催します。「本当に必要な公共施設は何か？」を市民とともに決めます。

全ての事業を市民が納得できる施策にしていきます。

市民参加の「評価委員会」を作り、その評価結果を次の施策に有効に活かします。

入札改革を徹底促進します。

随意契約を減らし、電子入札システムを進めてムダな支出を減らします。

財政白書を市民とともに作成、財政の「見える化」を推進します。

財政を分析し、わかりやすく説明する「財政白書」を市民と作り、公表します。

6.5億円の新メッセ = 多目的産業展示施設のための土地購入を一旦凍結します。

運営経費などについて何も決まっていない大型事業。建物を作る県庁と自ら協議し、市民と議論してから決定します。

市民の力でまちに活力を生み出します。

旧島田地区の本通に3軒、金谷に2軒、川根に2軒の空き店舗活用計画を立てます。「パパママしゃべり場」「日替わりシェフのレストラン」「私の手作りショップ」などを市民に企画してもらおう「元気なまち貢献事業」に2年間の家賃補助をします。

市民活動支援センターを設置して、市民活動を活発化させます。

建物ではなく、市民活動支援係をきちんと配置して、NPOや市民団体への支援を強化し、活動しやすい環境づくりをします。

市民提案型事業委託で、役所の仕事を市民の手に移します。

市民がやりたいことを役所に提案し、役所が実施している公のサービスを少しずつ市民の手に移していきます。

子育ての不安や悩みを解消する場をつくります。

子育て中のお母さん、お父さんが集える「パパママしゃべり場」をつくります。

子育てしやすいまちづくりを進めていきます。

地域の公会堂を活用した子育て支援の活動を拡大していきます。

地産地消を進め、農業を振興します。

「地産地消モデルタウン」となり、学校給食などでの地産地消の割合をさらに向上させ、「ありがとう」「おいしかった」という顔の見える関係を作ります。

市民と協力してゴミを減量します。

まだ使える家具などを再生したりゴミ問題を教育する「ゴミゼロプラザ」を開設し、生ゴミのたい肥化などのゴミ減量策を進めます。

里山を保全し、生き物と出会える島田をつくります。

荒れた里山を市が借り受けて、市民の力で再生し、市民の憩いの空間にします。

人が触れ合う「居場所事業」を進めます。

建物を建てるのではなく、人が触れ合うキッカケと外出を支援します。今ある施設の活用を図ります。

自ら歩いて歩道や施設を改善します。

自ら歩き、車イスも体験して、道路や施設のユニバーサル整備をより早く進めます。

家の前から乗れる、公共交通網の整備を目指します。

コミュニティバスを補完する「乗り合いタクシー」を、まず金谷、六合に導入して、家の前から利用できる公共交通網を整備します。

市民病院を維持し、地域医療を支えていきます。

毎年20億円を越える市民病院の赤字。建て替えだけでは解決できません。問題を市民全体で1年間じっくり議論して、開業医を含めた地域医療を支えていく対策を立てます。

省エネ住宅・ビルを増やして環境に優しいまちに。

省エネルギー住宅やビルの新築・改修の補助制度を実施して、省エネ住宅・ビルの数を増やし、建設・建築業の活性化も図ります。

公共施設での太陽光発電、木材利用をさらに進めます。

島田一中で実施している、太陽光発電設置、施設の木材利用を、すべての小中学校や公共施設で進めます。現在ある補助制度を維持拡大して、太陽光発電の設置の住宅を増やします。

みどりいっぱい、市民が集まり楽しめる場を創ります。

「帯通り」を単なる道路から公園へ移行させ、金谷や川根の商店街の一角にもみどりの空間を作って、市民が集まり楽しめる場を創っていきます。

「障がい者本人の意思を尊重」する政策へ転換します。

障がい者ご本人の「こうしたい」「何ができる」という意思を尊重した政策を実施します。そのためにまず、施策計画段階から当事者にかかわってもらうことから始めます。その後、地域の支援体制の整備や、就労・社会参加へとつなげていきます。

障がい児への支援員を拡充します。

学校生活に障害のある児童・生徒に対して支援員を配置するなど支援の拡充を図り、ノーマライゼーションを実現します。

「県内初の女性市長」として島田市を宣伝します。

島田のお茶や文化、住みやすさなどを、「島田のトップセールスウーマン」となって県内外にアピールします。

これらの施策展開のための経済基盤

2009年度の島田市の予算は一般会計では346億円です。
昨年度の予算より3%の減になっています。

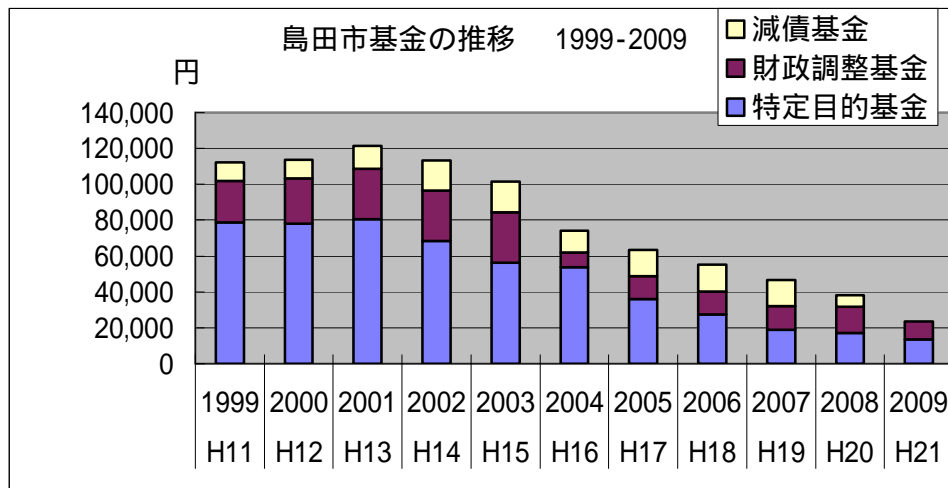
歳出		歳入	
一般会計	346億円	個人市民税	50億円
水道会計	14億円	法人市民税	8億円
病院会計	134億円	固定資産税	64億円
国民健康保険事業	86億円	都市計画税	11億円
介護保険事業	62億円	地方交付税	45億円
後期高齢者医療事業	17億円	国から	37億円
公共下水道事業	11億円	県から	22億円
その他	4億円	基金繰入金	16億円
合計	674億円	市債(借金)	36億円
		その他	57億円
		合計	346億円

世界経済危機の影響は、今後、市の財政を直撃することでしょう。特に個人市民税、法人市民税の今以上の落ち込みは避けることが出来ないと思われます。

国も自治体も財政危機。あれもこれもの時代ではありません。

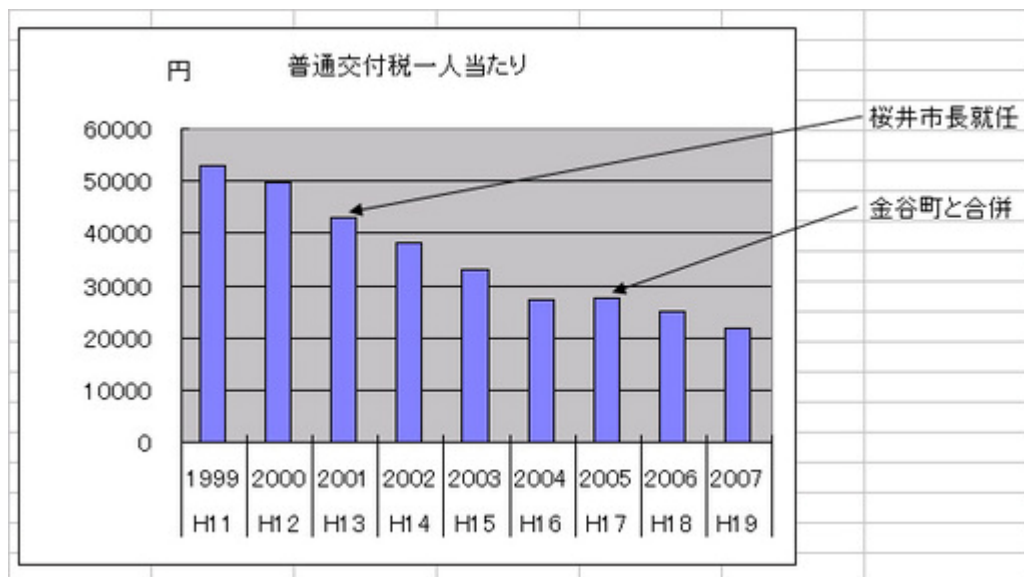
過去の 10 年間の財政の変化をグラフで見ていきましょう。そして今の島田市の状況を把握し、今後の厳しい財政運営を一緒に考えていきましょう。

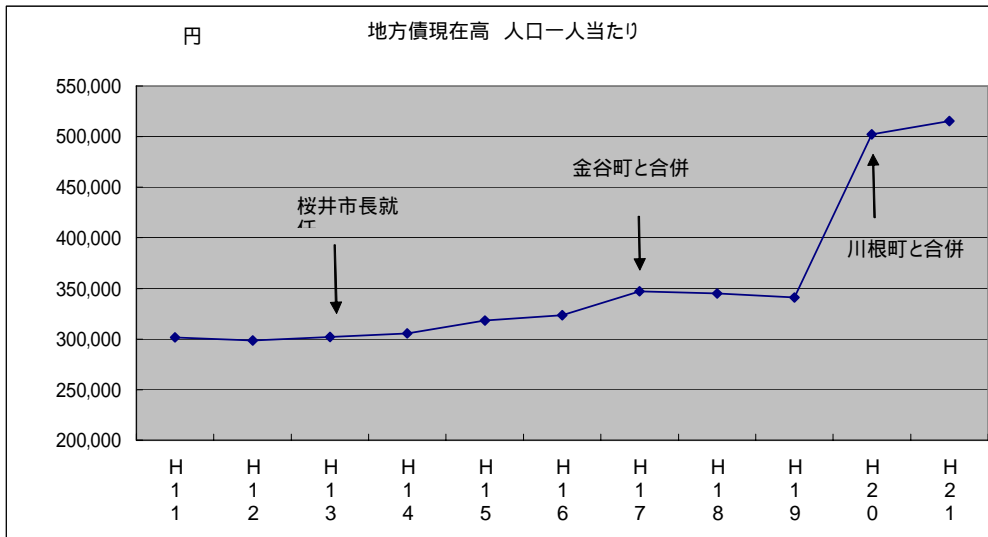
(現島田市は 2 回の合併をしているので、人口一人当たりで計算して 10 年間の比較を行う。)



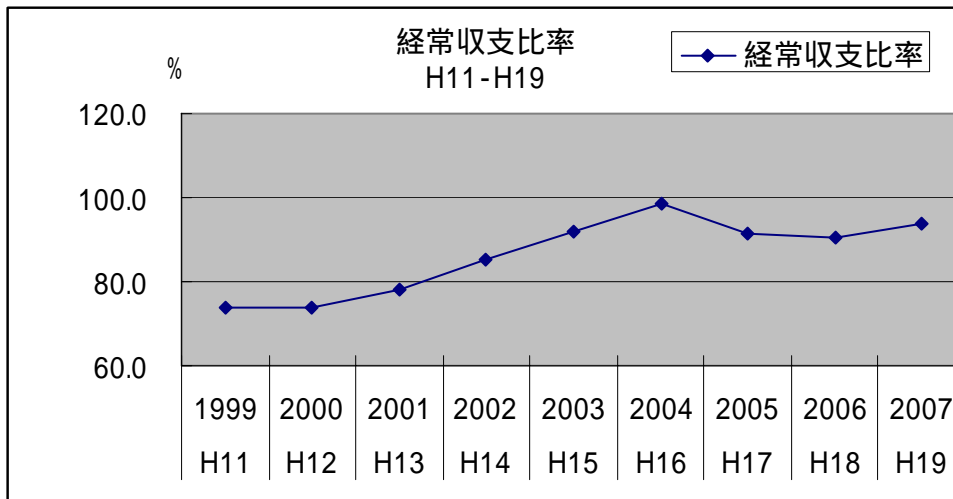
H11-H19 は決算書から H20,H21 は予算書から作成

基金というのは貯金です。

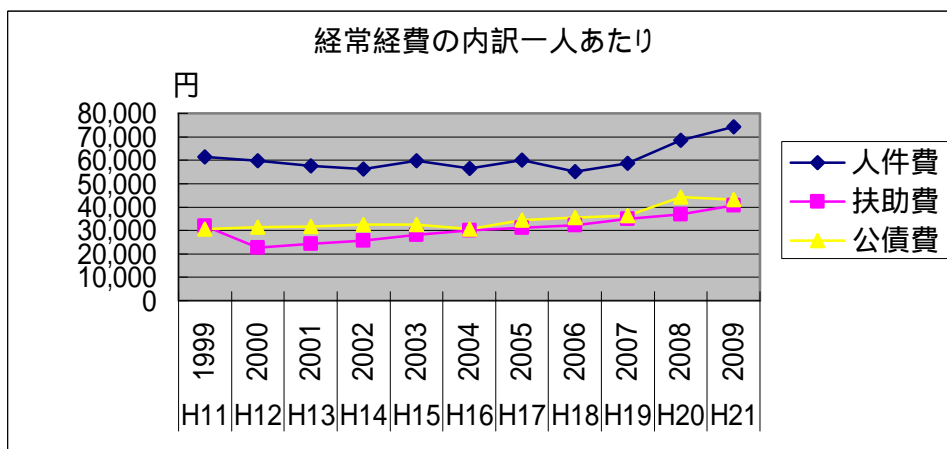




平成20年度に急上昇しているのはごみ焼却施設が一般会計に組み込まれたから。



(減税補てん債および臨時財政対策債を除く)



H11 - H19 は決算書から、H20-H21 は予算書から

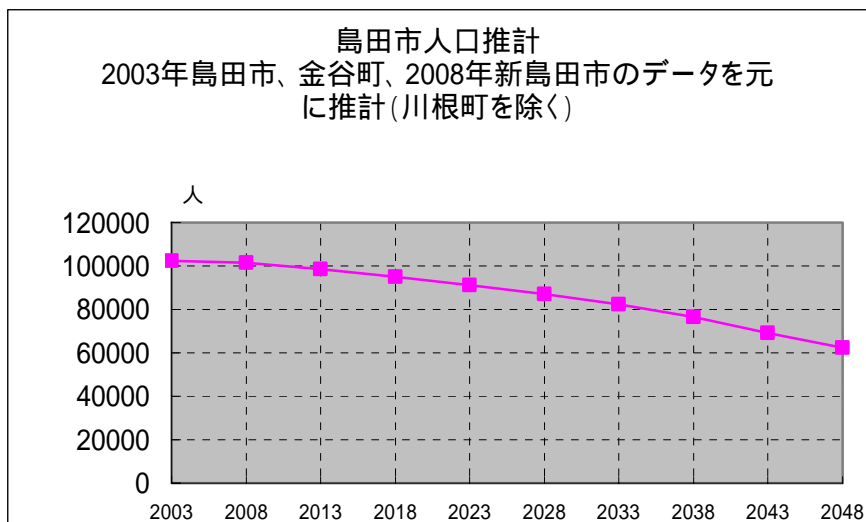
経常収支比率のうち人件費、扶助費、公債費の人口一人あたりの額

	一人あたり										
	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
人件費	61,449	59,688	57,608	56,368	59,785	56,585	59,977	55,221	58,648	68,417	74,340
扶助費	32,008	22,747	24,397	25,637	28,169	30,133	31,207	32,153	35,077	36,906	40,577
公債費	30,676	31,318	31,538	32,374	32,465	30,618	34,317	35,603	36,392	44,218	43,077

H11 - H19 は決算書から、H20-H21 は予算書から

将来を見据えるためには今後の島田市の人口推計が重要である。

下のグラフは2008年12月のデータを元にして人口推計をしたものである。



推計値は2048年には6万人に減少するということである。
この事実を受けとめた施策、財政運営をしていかなければならない。

平成 19 年度決算 総務省データから

経常		実質		財政		将来					
団体名	収支 比率	団体名	公債 費比 率	団体名	力指 数	団体名	負担 比率 (修 正)				
1	御前崎市	66.7	1	御前崎市	6.0	1	裾野市	1.54	1	御前崎市	-
2	裾野市	67.5	2	三島市	7.4	2	御前崎市	1.48	2	裾野市	-0.0
3	湖西市	72.7	3	熱海市	8.2	3	湖西市	1.23	3	富士市	34.7
4	富士市	75.7	4	沼津市	8.3	4	富士市	1.17	4	三島市	35.2
5	御殿場市	77.7	5	裾野市	8.3	5	御殿場市	1.14	5	伊豆市	40.0
6	沼津市	78.8	6	伊東市	9.0	6	沼津市	1.08	6	伊豆の国 市	63.2
7	袋井市	82.8	7	富士市	9.2	7	熱海市	1.04	7	袋井市	68.1
8	菊川市	83.2	8	御殿場市	10.8	8	掛川市	1.01	8	伊東市	68.4
9	掛川市	83.5	9	静岡市	11.2	9	袋井市	1.00	9	御殿場市	78.2
10	三島市	83.7	10	伊豆の国市	12.4	10	富士宮市	0.96	10	静岡市	87.4
11	焼津市	84.4	11	袋井市	12.8	11	磐田市	0.96	11	沼津市	87.6
12	磐田市	85.5	12	浜松市	12.9	12	三島市	0.95	12	焼津市	90.5
13	伊豆の国市	85.9	13	湖西市	13.6	13	浜松市	0.91	13	湖西市	94.2
14	浜松市	86.4	14	磐田市	14.1	14	焼津市	0.91	14	磐田市	95.8
15	牧之原市	86.4	15	焼津市	14.9	15	静岡市	0.90	15	富士宮市	96.1
16	伊豆市	86.7	16	島田市	14.9	16	伊東市	0.89	16	菊川市	100.6
17	静岡市	87.4	17	伊豆市	15.1	17	牧之原市	0.88	17	熱海市	104.1
18	熱海市	87.5	18	富士宮市	15.9	18	島田市	0.85	18	島田市	106.8
19	藤枝市	87.6	19	掛川市	16.5	19	藤枝市	0.85	19	浜松市	111.4
20	伊東市	88.7	20	藤枝市	16.8	20	伊豆の国 市	0.83	20	下田市	115.6
21	富士宮市	89.4	21	下田市	17.4	21	菊川市	0.82	21	牧之原市	130.6
22	島田市	89.7	22	牧之原市	19.2	22	伊豆市	0.62	22	掛川市	134.2
23	下田市	90.4	23	菊川市	19.7	23	下田市	0.56	23	藤枝市	134.5